



家庭教育 なう vol.4

2021年6月発行
恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 嶋倉
〒509-7203 恵那市長島町正家後田1067-71

TEL 0573-26-1111 (内線209)
FAX 0573-25-7129
Mail shimakura-shinzo@pref.gifu.lg.jp

家庭教育学級リーダー研修会分散形式で実施中!

恵那市コミュニティセンター主事会にて

8日に行われた恵那市公民館主事会で、家庭教育学級リーダー研修会の代替研修を行いました。恵那市では各コミュニティセンターで乳幼児期の家庭教育学級が行われていて、定期的に担当主事が集まって研修を行っています。今回に代替研修を位置づけていただきました。

専門職からは、乳幼児学級の重要性と、運営にかかわって「みんな子育て2」の活用など簡単に話をしました。そのあと、名古屋女子大学の非常勤講師の宮島恵子先生から「望ましい母子関係のあり方を学ぶ」と題して、子どもの



宮島恵子先生(手前)の講話を熱心に聞く主事会の皆さん

自立につながる母親へのサポートをどうしたらよいかについて、豊富なご経験の中から具体例を示しながらの講話がありました。

その中で特に心に残ったのは、「現代は自己中心的な社会になって子育て中の親も孤立しかねない。孤立させないサポートが重要だ。そうすることで親が子育てに自信が持てるようになり、親の自立につながる。子どもの自立はその先にある。」という部分です。県からの説明でも「乳幼児学級では、何を学ぶかよりも学びを通して親の仲間づくりをすることこそ重要」と話しています。宮島先生のお話はそれとつながる話で、腑に落ちます。

講話を聞いた後に、一人の参加者から発言がありました。発達障害の子を持つ乳幼児学級生(母親)の話でした。「母親から何度か話を聞くうちに、仲間」

ある時母親が思い切って自分の子育ての苦しさなどを仲間打ち明けました。ほかのお母さん方もその子どもさんに発達の課題があることはうすうす承知していたこともあり、母親の話を真剣に聞いてくれました。子育ての苦しさをオープンにできたこと、自分のつらさをみんなが受け止めてくれたことからその母親の気持ちがずいぶん楽になってそれが降安心して子育てに向かうことができました。「一人の課題を他者と共有することが本人だけでなく周りの人たちの力になることを知ったと、貴重な体験を話してくださいました。」

単にイベントに集まるような形の学級ではなく、この例のように、仲間を思いを伝えたり仲間の思いをじっくり聞いたりする仲間づくりにつながる取り組みができたなら素敵ですね。

土岐市園長会にて

9日に開催された土岐市幼稚園こども園の園長会でも、時間をいただいで家庭教育学級についての研修を行いました。研修会後のアンケートで、次のようなご意見をいただきました。

▼ 幼児期は特に認知能力より非認知能力の育成が重要です。家庭や園で共同して取り組むことの大切さを家庭教育学級等を通して保護者に伝えていきます。

大切なことは、子育て中の親がいつでも誰かにつながれること、相談できるリアルな仲間があることです。家庭教育学級という形にこだわらなくても保護者同士が何かの学びを通して心がつながる取り組みを工夫したいと思っています。

